

**製品名: Ksr-1 (リン酸化 Ser392) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04926**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	115kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KSR1
別名	KSR1; KSR; Kinase suppressor of Ras 1
遺伝子 ID	8844.0
SwissProt ID	Q8IVT5
免疫原	抗血清は、Ser392 のリン酸化部位周辺のヒト KSR 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 358-407

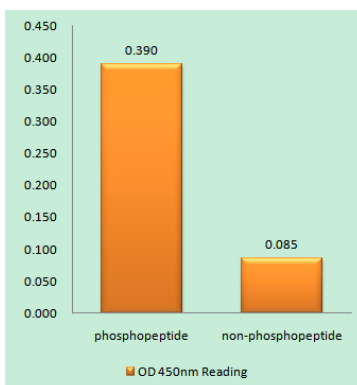
**背景**

注意: ここに示す配列は Ensembl 自動解析パイプラインから得られたものであり、予備データとして考慮する必要があります。機

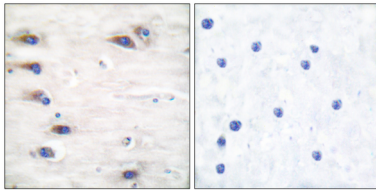
能: MEK と RAF を繋ぐ、位置制御型の足場タンパク質。活性化シグナル伝達複合体の集合を通じて、MEK と RAF のリン酸化と活性を促進します。単独では、キナーゼ活性は示されていません。、PTM: MARK3 によって Ser-309 がリン酸化され、さらに Ser-404 もより高度にリン酸化されます。PPP2CA によって Ser-404 が脱リン酸化されます。休止細胞では、リン酸化 KSR1 は細胞質に局在し、刺激を受けた細胞では、脱リン酸化 KSR1 は膜に局在します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: ホルポールエステル/DAG 型ジンクフィンガーを1つ含む。、類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含む。、細胞内局在: 刺激を受けていない細胞では、リン酸化型が 14-3-3 タンパク質に結合し、細胞質内に隔離される。成長因子処理後、このタンパク質は膜移行が可能になり、細胞質から細胞周縁部へと移動する。、サブユニット: HSPCA/HSP90、YWHAB/14-3-3、CDC37、MAP2K/MEK、MARK3、PPP2R1A、および PPP2CA と相互作用する。また、Ras 依存的に RAF および MAPK/ERK とも相互作用する (類似性による)。14-3-3 タンパク質がリン酸化 KSR に結合すると、膜局在が阻害されます。、注意:ここに示す配列は Ensembl 自動解析パイプラインから取得したもので、暫定データとしてご利用ください。、機能:MEK と RAF を結びつける、位置制御型の足場タンパク質。活性化シグナル伝達複合体の組み立てを通じて、MEK と RAF のリン酸化と活性を促進します。単独では、キナーゼ活性は示されていません。、PTM:MARK3 によって Ser-309 がリン酸化され、さらに Ser-404 がリン酸化されます。PPP2CA によって Ser-404 が脱リン酸化されます。休止細胞では、リン酸化 KSR1 は細胞質内に局在し、刺激を受けた細胞では、脱リン酸化 KSR1 は膜に局在します。、類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: 1つのホルポールエステル/DAG 型ジンクフィンガーを含む。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、細胞内局在: 刺激を受けていない細胞では、リン酸化型が 14-3-3 タンパク質に結合し、細胞質内に隔離される。成長因子処理後、タンパク質は膜移行が可能になり、細胞質から細胞周縁部へと移動する。、サブユニット: HSPCA/HSP90、YWHAB/14-3-3、CDC37、MAP2K/MEK、MARK3、PPP2R1A、および PPP2CA と相互作用する。また、Ras 依存的に RAF および MAPK/ERK とも相互作用する (類似性による)。14-3-3 タンパク質がリン酸化 KSR に結合すると、膜局在が阻害される。、

## 研究分野

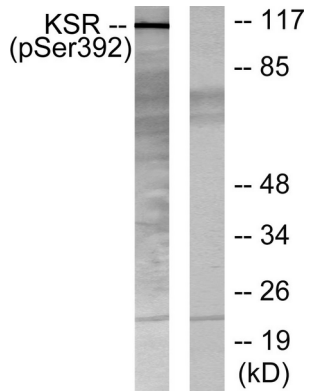
## 画像データ



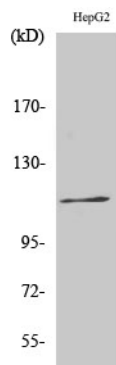
KSR (リン酸化 Ser392) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



KSR (リン酸化 Ser392) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



KSR (リン酸化 Ser392) 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Ksr-1 (S392) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析